

「自由な小学校」を北海道につくろう！

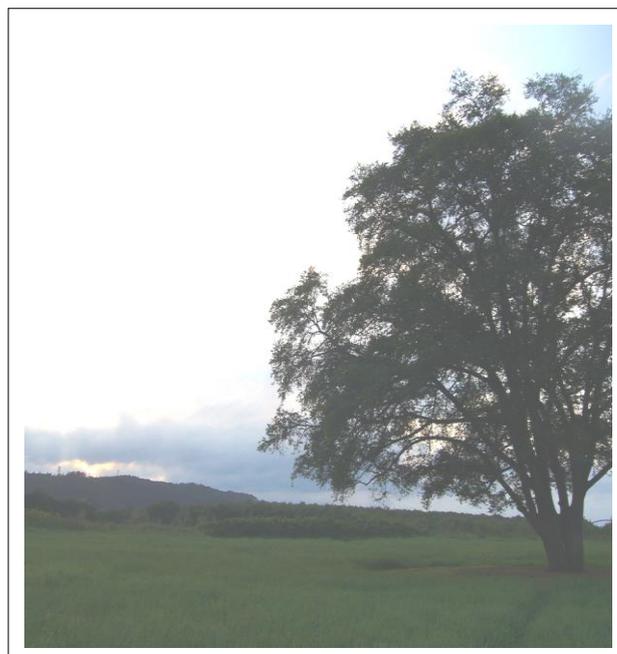
— ゆきのさと自由が丘学園（仮称） —

## 小学校（・中学校）設立趣意書

2021年開校をめざして

自由と豊かな自然の中で、  
子どもたちの学びと成長を  
ともに育む学校づくりに、  
あなたも参加しませんか。

私たちは「自由と協同」の理念  
“子どもが主人公＝主体”の  
人間教育の学び舎を、  
「市民立」により推進します。



認定NPO法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会 気付

北海道に「自由な小学校」をつくる会

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11

TEL(011)858-1711 Fax(011)858-1333

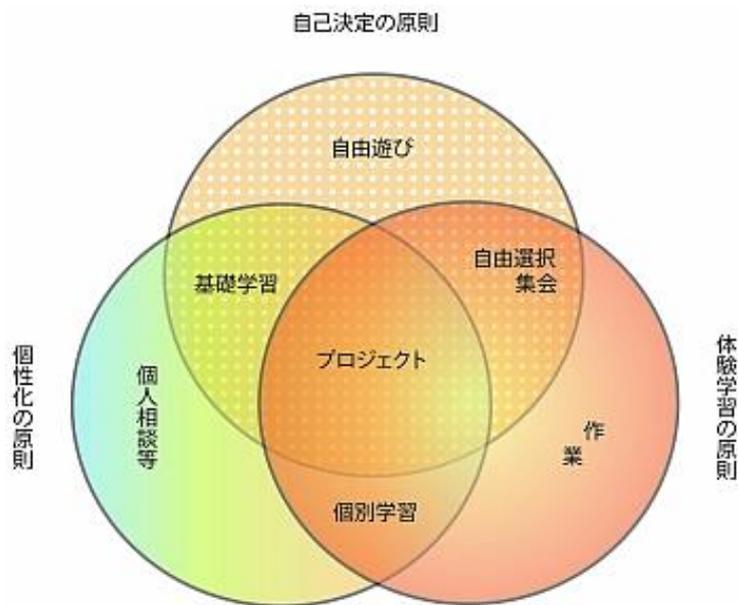
URL <http://www.hokjioka.net> E-mail:[codmokan@agate.plala.or.jp](mailto:codmokan@agate.plala.or.jp)

## 子どもたちへのメッセージ

- 学ぶことの楽しさを体験しよう…さまざまな理由で今の学校に喜びを見出せないでいる人に、学ぶことの本当の喜びや感動を知ってほしいのです。
- 自分の大きな可能性を信じよう…一人ひとりかけがいのない存在、その個性をみがき、夢をもってチャレンジすることを応援します。
- ともに生きともに成長しよう…子どもも教師(大人)も同じ人間、ともに生きる仲間として、“新しい学び舎”をいっしょに創っていきましょう。

[北海道自由が丘学園のパンフレットより]

◀ 図：きのくに子どもの村学園・ホームページより ▶



### これからの運動に、ご理解・協力・支援を

北海道の「自由な小学校」づくりに関わってみたいという方は、ぜひ活動にご参加ください。



2018年6月作成

## 自由な小学校とは

(\*以下は先進例を参考にイメージ)

子どもたちがのびのび学び成長できる場所、それが学校。

いつもわくわく、たのしい学校。子どもたちも大人たちものびのびする学校。  
宿題もテストもない、学年の壁もない、「先生」とよばれる大人もいない学校。  
感情面、知性面、人間関係の自由を大事にする学校。

知識偏重でドリル詰め込み式の学習と大人が子どもたちの生活を枠付けする教育をやめて、たのしいから自己肯定感と思いやりが育ち、のびのびしているから知性が育つ、そんな学校が自由な学校。

学びは大人からの要求ではなく、子どもたちの意思が第一。

だから、多様なメニューと豊富な経験を大事にしてそこから学びが紡ぎだされていく。

一人一人を尊重して、とことん話し合っていく生活そのものが大切な学びの場。

「子どもを笑う教師」ではなく「子どもとともに笑う教師」(A.S.ニール) がいて、笑いと喜びにあふれているのが自由な学校。



## どんな内容の教育、生活

(1992年開校、25周年を迎えた和歌山県「きのくに子どもの村学園」小中学校をモデル)

\*左ページ図を参照

### ■プロジェクト

自己決定の原則、体験学習の原則、個性化の原則が調和的に実行される形態。

有名な教育学者デューイの提唱した「活動的な仕事」にあたります。

学年の壁なく縦割り、自分で一年間所属するテーマを選び活動します。

テーマ例：木工・園芸、劇団、農業・調理、アイヌ文化、自然と雪など。



### ■基礎学習

プロジェクトと結びつけて学習します。「かず」(算数)と「ことば」(国語)の時間があり、原則上のクラスと下のクラスに分かれて、教え合いの中で共同的・体感的に学ぶ学習です。

### ■自由選択

グループ活動を中心に、スポーツ、  
図工、音楽、英会話など、様々な  
メニューから1学期ごとに選びます。

……< 時間割(例) >……

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
1	登校	基礎/学科	プロジェクト	基礎/学科	基礎/学科
2	↓	↓	↓	↓	↓
3	プロジェクト	自由選択	プロジェクト	プロジェクト	自由選択
4	↓	↓	↓	↓	↓
5	プロジェクト	自由選択	プロジェクト	基礎/学科	プロジェクト
6	↓	↓	↓	ミーティング	↓
7					帰宅

注：基礎～国語・算数、自由選択～表現・もの作り・スポーツなど

### ■ミーティング

週1回の全校集会のほか、必要に  
応じて全寮ミーティング、グループ  
ごとの話し合いがあります。一人一  
人を大切に、みんなの納得を探  
って、とことん話し合うことが大切

です。議長は子どもが行い、多数決では子どもも大人も同じ一票です。

\*地域の大人も大事なスタッフ。(オープンシステム：クラスの壁、学年の壁、地域との壁を作りません)

# ゆきのさと小学校の規模・経営

(単位：数字のみは万)

\* 「小学校」経営概要：資金計画試算 注：1学年20名として。

		初年度	2年目	3年目	
生徒数	定員：6学年120名 内新入生15-20名	1~4年生 80 80	100 20	120 20	1年目各15名の場合あり ：60名~
年間収入	授業料 ①3.5万 ②5.0万  入学金 @10万 施設教材 @12万 小計	$3.5 \times 80 \times 12 = 3,360$ $5.0 \times 80 \times 12 = 4,800$  800 960 入学金等加算して、 ①5120万、②6560万	4,200 6,000  200 1,200 —>	5,040 7,200  200 1,440 —>	←私立高校並み ←専門学校程度  ←1万/月  *寮費：別途@5万か
教員職員	専任 非常勤 事務	} 10~(15)	15	15	*校長：専任 or 非常勤 *法人理事(長) "
経費	人件費 専任 他 施設費 教材・管理費 小計	(ア)10人で3600万 (イ)15人で5400万 概算 700万 ↓ 250万 (ア)4550、(イ)6350万	15人で5400万  1000万 500万 6900万	5400万  1500万 500万 7400万	*@30万/月で試算 ←年間360万 *法定福利含むと、 +1.3倍必要(A) *+手当/期末・家族(B) *寮費は収支同額
	P/L：収支差	①(ア)5120-4550=+ (イ) "-6350=▲1230 *補助金でカバー ②6560では(ア)(イ)=+	①5600-6900=▲1300 *補助金でカバー ②7400-6900=+	①6680-7400=▲720 *補助金でカバー ②8840-7400=+	←十分(A)[(B)]充当 *但し維持費や中期計画と整合させる

## 【条件、前提】

- **母体財産**：3年間定員割れでも維持 ⇒仮に最低支出 4500万×3年=13,500万、≒1.0~1.5億 (X)
  - **学校施設**：土地・建物は自治体としても、寮は自前とすると⇒1~2億円 (Y) (X) + (Y) 合計≒2~3.5億！  
通学の場合、スクールバスなどで別途運営。  
(例) 運転手@20万×10ヶ月=200万+車両給油代約100万≒300万/年、2台で600万。これを生徒按分。約6千/月。  
寄宿の場合、(札幌近郊立地であれば、道内遠方・道外から10~20%想定。)  
(例) 生徒10~25人、学校傍か最寄区で寮・アパート。寮母数名+教員交代配置(orホームステイ)。@5万・50-100万収支。
  - **補助金**：認可学校法人では、生徒1人≒30-40万/年×80人=2400-3200万、100人≒3500万、120人=4200万。  
これにより、上記収支は黒字化する。~支出留保分(A)(B)に充当ないし積立て。(授業料①検討可能)  
(注：特区=自治体保証、会社・NPO法人で設置できるが助成は激減 @5万/年×80人=400万・・・120人=600万)
- 
- **『学校設置計画書』**：認可申請(開校予定の1年半前)必要書類：様式+下記~北海道学事課・私学審議会経由  
1)学則、2)校地校舎、3)設備、4)教育計画、5)設立趣意書、6)寄附行為、7)財産目録、8)寄附明細、9)決議録、10)事業計画
  - **資金形成**：これが最大テーマ！ 予約金・出資金がどこまで可能か。  
    - <試算> @10万で100人=1千万、1000人=1億。1万では1万人(@50万で100人=5000万、300人=1.5億)  
『市民立』=ヒューマン・トラスト型では、「1口1万」で多数の市民・父母の主体参加を土台とする。  
予約金方式も含めて、**設立の1~1.5年前の確保が必要**となる。
    - <付加> 入学予定者等からの「出資金」=卒業時返済、(仮)@20万×80名=1,600万・・・120名=2,400万。  
但し寄付以外は母体財産とはみなされない。理事者等借入も同様。普及支援活動充当(集会・奨学・・・)

## \* 「ゆきのさと小学校」設立の取り組み（行動プラン）

[2018.6月・北海道自由が丘学園事務局]

### 【経過】

- 元々『自由と協同』の教育・学び舎を標榜してきました。2年前より新たな提案「自由な小学校をつくる会」を担当理事を中心に展開が始まっています。
  - ～2016年より、8回の各地集会。「基本パンフ」「趣旨論文(通信教育のフロンティア掲載)」を発行。
  - ～昨年9月、実践20周年兼ね「きのくに子どもの村学園長講演会」開催。「ゆきのさと通信」発行。
- 2018年になり、札幌にて有志尽力により地域集会/説明会が連続しています。(2月/旭川幼稚園実施)
  - ～5/19西区で40名規模、特にSNSでの情報伝達が顕著：子連れ参加・地方/岩見沢美唄函館・
  - このあとも連続して有志=父母が中心になり説明会が進んでいます。
- 日本社会の混迷・転換期にあること、教育を含む民主的変革を望む市民ニーズがある証左でもあり、この流れを加速するにも、**運動自体を「社会化・顕在化」させていく必要**があります。  
かつての認可運動「自由が丘ヒューマン・トラスト」運動=夕張ブラスカル教訓\*を参考に、提示します。  
[注\*当時1口1万円、法人10口以上、教材教具の提供 or 小口・共同拠出やワーク参加歓迎・・・1997年-数年展開]

### 【今年の方針】

- (1) **各地での説明会を連続させます。**.....以下、この間の集会参加者：ルート～人脈、幼稚園、学童、地方・・・
  - ・6/2(土)14-16時、西区説明会第2回：40名予約 ⇒約40名参加！（窓口/綿谷さん）
  - ・6/9(土)9:30-11:30、銭函/張碓のかもめ保育園にて説明会：30名参加！（窓口/金澤・大槻さん）
  - ・6/30(土)14-16時、西区第3回：6/25時点予約50名。

\*以降、進捗に応じた(四半期等での)集会や、候補自治体が具体化された地域でのイベントを組立てなど。
- (2) **賛同者の「組織化」を進めます。**
  - ・基本手順。経営/費用は別紙概算。「認可申請(書)」は校地・校舎(母体財産等)が確定後→道学事課。

- 1) **設立呼掛けの「賛同署名」を集めます。** \*6/30「様式」集会参加者配布  
～当面数百人、早期に1,000名規模。 ⇒ 1人10名×50名で500名、1-2ヶ月で初期規模へ。
- 2) **つくる会の「会員」になってもらう。** ⇒ 郵便口座「02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会」  
～通信配布、各種発信、研修会企画&参加・例/トーク「21世紀への教育を語る」  
⇒ 会費1,000円(案)、通信・資料代。自治体対応交通・経費等の活動維持資金。  
\*参考：「認定NPO自由が丘」は年会費/月次通信費3,000円。そこから約40%は還付されます。
- 3) **「寄金」=学校の母体財産。**：寄付+「予約金」方式。(以下案)  
～1口「10,000円」、企業「5-10口以上」、別口座管理。別途、入学希望者「出資」・卒業後返還。  
この金額で自治体反応に温度差が出てくる。 \*受入れに値する「力・規模」、認可法人申請要件  
実際の集約進捗により「特区」判断なども。 \*注：特区の場合、補助金が些少⇒親・学園負担大

### 【運動視点、展開、スケジュールなど】

#### ●『ヒューマン・トラスト』運動：“市民が共同、みんなで参加し創りあげる”

- ～お金：上記区分にて呼掛け、別口座作成・予約申込書 ⇒ 自治体判明の前(or 並行)案内
- ～グッズ等：教材、手伝い=ワーク参加、地域集会実務・・・ \*有力者「(個別)」、ｸﾞﾗｯﾄﾞ 募金「別記」  
・上記の提供者は開校後にモニュメント表示・・・プレート or 壁面他

#### ●自治体との連携：“共に地域興し・活性化を目指す”立場。地域住民との共同により推進したい。

- ・寮の場合 ⇒食材・生活用品の購入。昼食賄い等地元雇用。「地産地消」型エネルギー
- ・地元密着 ⇒地場産業/農・林・漁業など一次産業の生産体験、住民交流、歴史文化学習など

#### [地域、自治体動向]

- A)道央-周辺支庁エリア：全道・全国区から募るとすると飛行場に近いかも考慮するか。
  - ・胆振～A町「 」、・空知～B市OO小学校→ギャリ、OO中学校「 」、・後志～C町「 ）」
- B)札幌圏、周辺エリア：交通的な近郊、教育での地域再生などの可能性。6/13-地元接点開始
  - ・D市～廃校OO→用途「 」、今後統合予定「 」、・E市～中学校廃校、今後複数小学校も、・F市～ 」、

#### ●スケジュール

- ・2-6月：上記(1)促進、・7-8月：上記(2)の1)と2)+自治体接点、 \*この反応で、(2)の3)判断
- ・9月-：候補地域集会、同自治体交渉、 \*7月28日(土)14-17、進行報告&懇親会：in自由が丘/東豊線福住駅7分

### (3) 執行体制について

- 統括執行(責任) 細田孝哉：公立学校教員～'85年北大教育学部卒、市内中学高校教諭、'04年北教大大学院修士課程修了
- 自由が丘(三役配置) 吉野正敏：代表理事～(学)共育の森学園理事、余市教育福祉村顧問(元ユープ教育部長、NERC元代表取締役)
- ◇事務局：①教員G/細田+3名、②父母G/綿谷・金澤・大槻+α、③自由が丘本体/吉野(+スタッフ) [一次案]
- ◇機関運営：通常/細田・吉野、集会企画/ →+①②、PR/ →+②③、渉外/ →+関係者、事務(経理)/③他

## 「学校設立」へのQ&A



### (1) 協力自治体をどのように

- 私たちの今の力では土地や建物を全て自前取得することは出来ません。設置基準/要件を満たさねば法律上の学校にはならないため、認可小学校には最小限でも「廃校の長期貸与+母体財産」が必要です。
- 現在の少子化、過疎化時代には、各地で学校統廃合が発生しており、その遊休施設を地域活性に生かすことが期待されます。自治体の多くは、地元地域の交流施設や農業・創作の場等に転用していますが、これを新たな教育実践/広域的先進的に再度活用することは施設の本旨に合うことであり、同時に人口確保や地場経済にも寄与するものとなります。道内では余市・仁木・ニセコの後志支庁や空知・胆振支庁に例があります。
- 現時点では、札幌周辺であれば多くの生徒が通学可能ですが、道央圏を基本にしつつ条件の一致する自治体を模索していきます。今年度上期展開の中で個別接点も含め情報を入手、その可能性を判断します。尚、自治体や地域との対応においては、設立主体/賛同者・自己資金の規模も重要となります。(後述)

### (2) 資金確保の方法は

- 認可を得るには母体財産が必要です。「経営概要」に示す数億円を設置申請時に提示/確保することが条件となります。又、自治体交渉と並行して資金形成を図らねば、自治体の好意的反応を得ることは厳しいです。
- 私たちは、これを「A 寄付」+「B 予約金」により目指します。Aは一定範囲で活動資金にも充当しつつ、Bにより早期に数千万規模をめざします。呼掛け先は、従来の集会参加者を含めた SNS 発信、自由が丘の会員支援者、今後の集会参加者などです。この進捗によっては、マスコミ発信など広く媒体拡大を組み合わせます。(クラウドファンディングは自治体が内定し一定の自前資金となった時点で検討)
- 企業家や有力者などへの働きかけはこれらと並行しますが、基本となる「市民立」=ヒューマン・トラストの構えを違えずに多数の市民の参加を募っていきます。民主的団体・個人への呼掛けも行います。

### (3) 生徒は集まるのか…

- きのくに子どもの村小中学校は25年以上の持続、その全国的拡充(小学校4校、中学校4校、関東以北はない)などや、この間の集会参加者の反応から、1学年20名程度の確保は出来るはずです。札幌近郊立地であれば、多数の通学者に道内各地分を見込みます。(道外は若干名予想、通学交通・寄宿については、経営概要に記述。参考：道内私立小学校は2校/札幌教系・札幌市内と豊浦町に計90名在籍、後者は特区)。
- 尚、授業料など教育費用の負担が心配されます。基本の授業料は他の私立学校水準とし、初期的経営試算は別表の通りですが、少しでも家計負担を軽減することに留意していきます。(制服鞆等の指定なし…)関連して、「出資」による協同組合型運営が展開されれば、その中から「奨学金」も検討されます。

### (4) どんな教師、どんな理念

- 認定NPO自由が丘の役員や会員/通信読者は全国約400名、現職教師もいます。学校現場で様々な課題を担っている教師からこの小学校に期待する人々、大卒者やキャリアある社会人からの希望者も含め確保を図ります。(「自由が丘月寒スクール」では毎年各大学生実習を受け入れており、多くは小学校教師に進む)実際には、経験者と若手の組合せ、プロジェクト等での専門家や地域住民との協力連携も組み立てていきます。
- 「自由と協同」は子ども達の主体性を尊重すること、仲間との信頼関係を築くこと、同時に大人が高い力量を発揮/提案しながら共に学びあうことです。私たちは『子どもの権利条約』の具現化を基調とします。

### (5) 認可が厳しい場合は…

- 上記資金規模は認可学校の要件ですが、施設確保と併せてこの見通しが困難な場合は別判断となります。
- その場合、①特区方式/自治体支援を得られてその保証のもとに「自力型」認可を得る、②自主学校としての展開/世間的にはフリースクールとして民間教育を実践する、のいずれかが考えられます。いずれも補助金はほとんど期待できません。後者では廃校舎が使用できるかは未定(在籍は居住地区の公立小学校)です。
- そもそも認可学校を目指すということは、生徒や父母が安心して入学し卒業していくために、又日本の教育制度への発信をしていく上でも意義があるのですが、そのための条件が整わねば何も進まないということは避けたいことです。よって、資金形成の進行途上でこの判断を支援者/ABのメンバーに諮っていきます。
- 尚、北海道自由が丘学園月寒スクールは20年以上の教育実践蓄積をしており、ここにおける「自力」展開の判断も検討されます。併せて、1年前に法制化された「義務教育の段階における・教育機会の確保法」の実質化の動向も留意していきます。(子どもへの学び保障、民間施設への支援・を謳う理念法)

## □これまでの歩み

- 1986年 新しい教育・学校をめざす研究会結成  
1991年 北海道自由が丘学園をつくる会結成（95年「設立委員会」始動）  
1998年 夕張にて自由が丘中学校「プレスクール」開校（97年/夕張市と「協定書締結」、99年/市街に「寄宿舎」入手）  
2003年 月寒に移転「北海道自由が丘学園月寒スクール」（併設/学童型「子ども館」、NPO法人化）  
～ 実践記録『陽はまた昇る』発刊&記念会、10周年行事：「湯川れい子ミュージックトーク」  
～ （学）旧小樽昭和学園再建参加・新法人共育の森学園に関係者役員等が参画し教育連携推進  
2009年 「エコハウス(スクール)」：施設に自然エネルギー導入/木質バイオマスストーブ・太陽光パネルでCO2の70%削減中+LED照明  
記念講演&見学会（10年/北海道「グリーンBiz事業所」認定、12年/札幌市「環境賞」受賞）  
2013年 15周年行事、「認定NPO法人」認証、  
2016年 「自由な教育」を語る会（8回/年、集会を重ねる）、「自由な小学校」をつくる会始動（NPO理事分担）  
2017年 ↓、20周年行事：「きのくに子どもの村学園長講演」、「交流とコンサートの集い」  
2018年ー ↓、各地集会開催、自治体情報/入手・打診、自治体確定～「公開方針」・基金形成・認可申請  
2021年 ↓、開校へ

## □「北海道自由が丘学園」の取り組み

- 「自由が丘」は、“子ども達が主人公(学び成長する主体)”の人間教育・学校づくりをめざしてきました。1998年には6000人以上の賛同者を得て、夕張の廃校舎にて「プレスクール」を開校し、オープン型の地域学校・大学とも連携した先進的な授業を進めました。その5年半の実践は『陽はまた昇る』（A5、280ページ、高文堂出版）の本にもまとめられています。
- 支援賛同者には、故黒柳朝(チョッチャん)・故三浦綾子・児童文学/加藤多一・映画監督/山田洋次・音楽評論家/湯川れい子さん達や、学識者、中小企業家、教育関係者など多くの市民の皆さんが加わっています。
- 私たちは、“どの子ども一人ひとりが大きな可能性を持っている”と考えます。また子育て中の父母や教育関係者だけでなく、地域の人々・市民が参加し支えあって、大人も共に成長していく《共育・協同の理念》を大切にします。この間、道内各地・本州から受入れた子ども達約100余名が巣立ちました。
- 「自由が丘」は2003年に札幌に移転、その後、認定NPO法人として教育実践と普及・共同活動を持続し、【もう一つの学び舎】づくりを継続中です。

### [現在の主な活動]

- **教育実践活動**
  - ・自由が丘月寒スクール（フリースクール）
  - ・(学童型)子ども館
  - ・GAOKA塾（マンツーマン指導）
- **教育普及活動**
  - ・月次相談会：月2回+個別
  - ・会報：「教育のフロンティア」通巻237号
  - ・ホームページ、フェイスブック、他
- **協同・連携**
  - ・教育集会：独自企画、民間教育団体と共催
  - ・地域連携：学校法人共育の森学園、NPO余市教育福祉村道地域自治体問題研究所、つきさっぴプロジェクト他
- **研修、研究など**
  - ・スタッフ支援：研修会、教師塾、
  - ・学生実習：教育大、北海学園大、文教大、北大等受入
  - ・出版等：ブックレット「北海道発教育提言 No.1-11」、書籍
- **新たな事業等（WAM福祉医療機構助成事業）**
  - ・「つきさっぴ寺子屋」：小中高生徒の週末居場所
  - ・「もう一つの実家」：親へのサポート～相談休息余暇など

私たちは、「人間の起こした問題は人間の力によってしか解決することができない」という考えから、人間の力を生み出す「教育・学校」を創る運動を進め、これまで夕張や札幌で主に不登校生や中退者を含む多くの児童を対象に民間教育活動を展開してきました。

（ホムパージュより）

教育・学び舎は、“子ども達が主人公＝学びの主体者”です。自由が丘は、「人間形成的（全人）教育を多くの市民との“自由と協同”により実現していこう」という理念を掲げ、1998年以来、知床のトラスト運動にならない『ヒューマントラスト運動』と表現して、実践と普及を続けています。



# 「自由な小学校」を北海道につくろう！

## 賛同・支援者よりのエール

- \*「2010年第3回国連子どもの権利委員会最終所見」に「高度に競争主義的な学校環境が、就学年齢にある子ども間のいじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺の原因となることを懸念する」(パラ70)と、子どもの居場所である学校を改善せよと日本政府に勧告しています。子どもたちが「ニコニコ、わくわく」学べる『自由な小学校』を市民の力でいち早くつくりましょう！！ (河野和枝/北星学園大学・教授)
- \*「敬山愛林」の社は自然を大切にするという意味を込めています。ものや情報があふれる時代だからこそ、自然の雄大さを体感し、楽しみ、そして自然を大事に共存していくような教育・学び舎を期待しています。(金井哲夫/株式会社秀岳荘・代表取締役会長)
- \*小さな子どもはみな、目の前の虫や草花に、驚きと畏敬の気持ちを持っています。新しい自由な小学校では、自然に対する素直な心を慈しみながら、いのちを大切に心身ともに健康な子どもたちを育てたいと思えます。(すずき ENT クリニック院長/元北大病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科特任講師)
- \*昔、貧しかった頃は大人も子どもも懸命に生き、田舎では自然の中で育ち合っていました。管理や評価をされすぎない場での学びと成長を、厳しい時代だからこそ北海道で創ってみたいと思います。(廿日岩ミサコ/元コブ さっぽろ理事)
- \*今、孫たちになってもらいたい姿は、1.素直な子、2.努力し、頑張る子、3.明るく元気な子、です。是非、このような子どもが育つ学校をつくって欲しい。そして自由な中で生徒も教師もキラキラ輝く学校にしましょう。応援しています。(田中傳右衛門/株式会社和光・代表取締役会長：KIMONO HANA・和匠苑)

～～ [追加依頼中] ～～

[メモなど]

## 北海道の学校づくりの皆さんへの 応援メッセージ

(学)きのくに子どもの村学園  
学園長 堀 真一郎

今から30年余り前、1980年代の中ごろの話です。当時、私はまだ大阪の大学に勤めていたのですが、小学校の高学年の生活実態についての調査をしていて、衝撃的な事実に出くわしました。質問の一つ「あなたは学校で一番楽しいのは何ですか」に対して、「授業が楽しい」と答えた子が2パーセントしかいなかったのです。

学習が学校でいちばん楽しい。そう答える子が、3分の1はいるような学校をつくろう。そのためには、子どもが決める、子どもは一人ひとり違っているのがよい、学習の中心は体験学習、こんな基本方針を掲げて学校づくりが始まったのです。8年近くかかり、1992年によく最初の子どもの村の学校が和歌山に誕生しました。

それから25年、同じ質問を子どもの村の小学生にしてみました。学習、つまり「プロジェクト」(体験学習)と「基礎学習」(「数」と「ことば」)を選んだ子は合わせて58パーセントでした。この子らは、中学校を出て普通の高校に進んでも、びっくりするくらい良い成績を残しています。

北海道の皆さん、子どもたちが「学習がめちゃ楽しい。休んだら損する」と思ってくれる学校、そんな学校をめざして共にがんばりましょう。

